

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32726

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01222

研究課題名(和文) 貫戦期における日中映画の越境と協働をめぐる総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study on the cross-border and collaboration of Sino-Japanese films during the Transwar period.

研究代表者

アン ニ (Yan, Ni)

日本映画大学・映画学部・特任教授

研究者番号：70509140

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2020年度と2021年度では、主にオンライン研究会とシンポジウムを開催する方式で研究を進めた。2019年に中国清華大学で開かれたシンポジウムでの口頭発言を元に組んだ特集「日中映画における表象の越境」を『Intelligence』No.21に掲載した。2022年度と2023年度では、メンバーはそれぞれ海外と国内における資料調査を再開した。対面研究会や他の研究グループとの共催によるシンポジウムを数回開催し、清華大学の要請に応じて女性研究者の連続講座も行った。そのほか、四年間で国立映画アーカイブで合計七回の研究特別映写会を行い、また中国語論文集が台湾で刊行することが決まっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

タイトルと上記の研究成果に示されたように、本研究は学術分野に跨って行われる学際的研究の一つと言える。メンバーの専攻は映画のみならず、文学、演劇、歴史、メディアなど広範囲にわたっている上、日本、中国、韓国、ロシアと地域研究の専門家も揃っている。戦時中と戦後の連続と断絶の両方からアプローチする方法論をメンバーが共有しているため、歴史の時間を縦断し、空間を横断しながら本研究が出した多くの研究成果は、学問をより細緻に追求する一方、広く社会や国民に分かりやすくアピールすることができたと思われる。

研究成果の概要(英文)：In 2020 and 2021, this research project was conducted mainly through of holding online workshops and symposiums; a special feature, "Crossing Borders of Representation in Japanese and Chinese Cinema," organized based on oral statements at a symposium held at Tsinghua University, China in 2019, was published in "Intelligence, No. 21". In 2022 and 2023, this project members resumed research on materials abroad and in Japan, respectively. Several symposiums were held in conjunction with face-to-face study groups and other scientific research institutes, and a series of lectures by female researchers were held in response to requests from Tsinghua University. In addition, a total of seven special research film screenings were held at the National Film Archive of Japan over the past four years, and a collection of Chinese-language papers will be published in Taiwan.

研究分野：比較映画史、表象文化論、映像学、ジェンダー

キーワード：越境 人的交渉 貫戦期 東アジア メロドラマ 断絶と連続 プロパガンダ 製作と受容

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者アンニと分担者の川崎賢子がかねて「一次資料調査と史的考察により諸学を融合する人文科学としての東アジア映画学の構築」(研究課題番号 15H03180)と基盤研究C「貫戦期における日中映画交渉史の学際的研究」(研究課題番号 17K02387)に参加した。前者は東アジア、東南アジアにおけるアーカイブの研究を行い、後者は日中映画交渉史研究にフォーカスした研究を進めた。

以上の研究活動を行った際に痛感したのは日中映画の越境、協働と再編を考察するには、韓国、朝鮮半島、ロシア、台湾、香港の地域・歴史・文化と映画を専門とする研究者の参加がどれほど重要であるかということだった。基盤研究Cにおいて、上海、北京の研究者を招聘して早稲田大学と清華大学でそれぞれシンポジウムを開催した後に、私たちはさらに研究を進化させる必要性を感じたため、新しい課題を設定し、各分野の専門家を集めてより多角的視点によって継続研究を行う準備を整えた。

2. 研究の目的

これまでの一連の先行研究において、日中戦争、太平洋戦争、冷戦期、中国建国前後の東アジアの歴史の変動と映画および映画人の越境と移動、葛藤と協働、再編は、分断されているため個別の研究対象とされがちであった。本研究は「貫戦期」(Transwar regime 1930年代から1950年代)という歴史学の概念を用いて、上記の歴史時間における日本映画と中国語映画の変容を学際的な視野によって包括的に捉えることで、日中映画交渉史を多元的に再構築し、研究分野の空白を埋めることが目的である。

上記の目的をより具体的に言えば、これまでの研究で看過されてきた史実を調査し、新しい史資料の発掘とその分析を行うことである。例えば、日中映画の越境的受容は東アジアにどのような広がりをもたらしたのか、文化冷戦期東アジアにおける日中戦争期映画の再受容・再評価はいかなるものであったのか、満洲映画協会の旧ソ連への接收および満映(東影)と延安との連続性はどのようなものであったか、日本映画人に対する再改造はどのようになされたのか、満映の映画技術と機材の新中国の映画製作への流用はいかになされたのか、といった学問的問いに答えを見出すことである。これを日本映画の側から問い直すなら、日本映画における中国人やアジア人表象は戦争下にはどのようなものであり、その戦争記憶はアメリカ占領期とポスト占領期にどのように変容したのか、日本映画は香港、台湾、東南アジアの華僑社会映画マーケットをどのように開拓したのか、総じて日本映画のアジアへの進出をどのように解釈すべきかといった問いに対する答えを導く研究であるともいえる。

3. 研究の方法

日中映画交渉の歴史をより深く、より多元的に探求するには、方法論的には、日中両国のみならず、隣接する地域である朝鮮半島映画、香港映画、台湾映画、東南アジア映画を研究視野に入れて、戦時と戦後の政治的地理的な変化の下で、頻繁に起こった人的流動がもたらした多国映画が交錯する事例や、日中映画に関わる事例を丁寧に拾い上げ、これまでアプローチできなかった歴史事相を明らかにすることである。

目的を達成する第一歩は史資料の調査となる。日本国内をはじめ、ロシア、韓国、旧満州、香港、台湾、シンガポールなどへ、分担者が各自調査を行う計画を立てていた。二年目からは、調査した結果の報告を兼ねた研究会を行うと同時に、毎年本研究の課題に応じ

て、国内外からゲストを招請してシンポジウムを開催し、社会に向けて研究成果をアピールする。また最終年度に論文集の刊行を計画していた。

だが、本研究がスタートした初年度にコロナがすでに世界で蔓延していた上に、ロシアがウクライナを侵攻する戦争を始めた、といった予想できない事態が長く続いたため、当初想定していた海外での資料調査、映像アーカイブ調査は、個別の例を除いてほとんど実現できなかったことを付け加える。

4. 研究成果

上述のように、コロナの蔓延と戦争の拡大により、初年度から三年目の 2022 年度まで、本研究が最初に定めた計画は断念せざるを得なくなった。とはいえ、他方、分担者の努力によってオンラインを駆使した研究会や国際学术交流を盛んに行い、研究成果も多く発表できた。以下に年度別に研究成果をまとめた。

(1) 2020 年度

2020 年度、コロナ禍が世界的な規模で猛威を振う中で、本研究はオンライン設備をフル活用し、グループ研究会とミニシンポジウムを開催し、研究テーマに沿って、国立映画アーカイブにおいて特別映写を行った。具体的な活動内容は次の通りである。

日本国内や国外からゲストスピーカーを招いたオンライン研究会を 4 回開催した。日本国内から二人と韓国と香港からそれぞれ一人、計四人の研究者が講演した。

本研究グループメンバーの三名が発表するシンポジウム「貫戦期日中映画における表象の越境」を早稲田大学 20 世紀メディア研究所と共催した。また代表者であるアンニが分担者を務める、科学研究費基盤研究 (A) 18H03568「建国初期中国を移動する身体芸術メディア・プロパガンダ戦時期からの継承と展開」(研究代表者：星野幸代)との共催により、国際シンポジウム「メディア化された身体/引き裂かれた表象 東アジア冷戦文化の政治性」をオンラインで開催し、二日間にわたって有意義な討議を行った。

国立映画アーカイブで特別映写を行い、戦時中の日中合作映画の他、計四本を鑑賞した。また、本研究代表者であるアンニの日本語著書『戦時日中映画交渉史』(岩波書店、2010)の中国語版が中国国内で刊行され、映画関係研究書籍のベストテンに選出されており、コロナ禍においても学術上の国際研究の架橋作用を果たしたと言える。そのほか、映画史家の故・佐藤忠男氏が所有している貴重な映画資料の一部を整理したことも、2020 年度の成果の一つとして挙げられる。

(2) 2021 年度

コロナ感染がまだ収まらない 2021 年度は、本研究のメンバー各自が日本国内で資料調査を行う、あるいは居住している本拠地で研究を展開した。また、調査した新しい資料をもとに業績を発表したメンバーもいた。さらにメンバー全員が参加する zoom による研究会は、昨年度と同じく、次の通り三回開催した。

2021 年 6 月 20 日、韓国映画研究所代表韓相言氏(ハン・サンオン)による講演「朝ソ文化協会の主要刊行物 解放直後・北朝鮮の文化状況と映画」を行い、参加者は研究メンバーを含めて全部で 40 名ほど。

2021 年 8 月 29 日、北京外国語大学教授秦剛氏による講演「戦時上海における日本の

映画工作 光明影業公司『茶花女』をめぐる映画史の内幕」を行い、メンバー全員が参加した。

2021年11月28日、ロシア国立研究大学高等経済学院東洋学・西洋古典学研究所准教授フィオードロワ・アナスタシア氏による講演「Dirty and Clean ソビエト・ロシアにおける日本映画の受容(1923-1963)」を行い、メンバー全員が参加した。

4 上記の定例研究会を踏まえて、年度末に科研費「日本近現代文学研究におけるメロドラマの想像力に関する多角的研究」(基盤C 代表者:木戸雄一)とオンライン研究集会「国民を縫い直す 貫戦期におけるメロドラマ的想像力の歴史的位相」を2022年3月20日に共催した。本研究からは、張新民、五味淵典嗣とアンニが、それぞれ貫戦期における映画を対象にメロドラマ的想像力がいかに戦時と戦後の作品に投影されており、また歴史的文脈の変化によって、メロドラマの形式がどんな変容を遂げたのかを考察した。この研究会は両グループのメンバー以外に60名ほどの聴衆を集めることができ、広く社会に向けて発信した。

5 国立映画アーカイブでの研究映写会は2021年9月16日と2022年1月6日に二回開催し、映画を七本鑑賞した。

6 2020年11月に開催したシンポジウムにおける口頭発表が文字化された論文三篇を「日中映画における表象の越境」と題した特集を組み、20世紀メディア研究所刊行の学術誌『Intelligence』No.21(文生書院)に掲載し、社会に向けて研究成果を公表した。

(3) 2022年度

コロナによる行動制限が始まった三年目では、本研究グループはオンラインによる学術交流を生かしつつ、感染者減少の時期を逃さずに、積極的に対面研究会や研究用の映画上映会を行った。詳細は次の通りである。

1 対面研究会:2022年10月8日 ゲスト:明治学院大学教授ローランド・ドメニグ氏、講演題目は「幻のユダヤ人難民映画『祖国を追われて』にまつわる問題点」である(早稲田大学教育・総合科学学術院にて)。

本研究による映画特別上映会を二回開催した:1.2022年7月30日(映画『香港攻略 英国崩るるの日』、『亡命記』、『孫悟空 前後編』と『森は生きている』を鑑賞 国立映画アーカイブにて)2.2023年2月25日(映画『スパイ・ゾルゲ 真珠湾前夜』、『北の三人』、『阿片戦争』と『海ッ子山ッ子』を鑑賞 国立映画アーカイブにて)。

本研究のテーマに関連する講座と研究発表をオンラインで実施した。一例として挙げられるのは、本研究と清華大学日本研究センターの共催で、日中女性学者による日中文化芸術史の連続講座を行った。全五回の中で、本研究メンバーからは、アンニと川崎賢子がそれぞれ「戦後日中映画交渉試論 歴史・表象・言説」(10月26日)、「李香蘭の越境を再読する」(11月24日)と題した講演を行った。いずれも参加者は100名を超えた。

(4) 2023年度

本研究の最終年度にあたる2023年度では、コロナによる影響が減少したため、他研究グループとの共催によるシンポジウムを二回、研究映画鑑賞会を二回開催した。詳細は次の通りである。

共催シンポジウム:1.2023年12月26日、27日、筑波大学東京キャンパス・文京校

舎で「東アジア冷戦文化の系譜学」と題する国際シンポジウムを開催した（科研費基盤研究 B「冷戦前期・東アジア英米文学のジオポリティクス」、科研費基盤研究 B「冷戦文化形成期（1945-1970）韓国文学・文化史の再認識」との共催）。本研究メンバーからは、渡辺直紀が報告、川崎賢子、五味渕典嗣とアンニがコメンテーターを務めた。2.2024年3月10日、早稲田大学早稲田キャンパスで「貫戦期の東アジアにおける映画と諸芸術 1940年代から1950年代にかけて」と題するシンポジウムを開催した（科研費基盤研究 A「冷戦期東アジアを移動する身体芸術メディア・プロパガンダ―潜伏する文化記憶」との共催）。招請したゲスト二名（三澤真美恵氏と中村秀之氏）が基調報告を行い、本研究からは五味渕典嗣が報告、川崎賢子が総合コメンテーターを務めた。

映画特別映写会：1.2023年9月15日、国立映画アーカイブで開催（映画『母の記念日』『君と行くアメリカ航路』『母子像』『戦場のなでしこ』を鑑賞）2.2024年3月9日、国立映画アーカイブで開催（映画『海流』『亜細亜の娘』『限りなく前進』『五人の斥候兵』『朝鮮の少年』を鑑賞）。

そのほか、台湾で2024年度刊行予定の本研究と他研究グループとの中国語共同論文集『二戦前後の日中身体表現芸術 映像・戯劇・舞踏・音楽・漫画』（仮題）は、現在編集作業を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 アンニ	4. 巻 -
2. 論文標題 2023年東亜電影、書籍的観覧と思考	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 中国語公衆号「謂無名」（公式アカウント）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 アンニ	4. 巻 第50号
2. 論文標題 文革後における日中映画交流の蜜月－映画交流の歴史文脈から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代中国研究	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎 賢子	4. 巻 87
2. 論文標題 左川ちか研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 2～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50863/showabungaku.87.0_2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 2024年1月号
2. 論文標題 宝塚の悲劇 何がカナリアを追いつめたのか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 24号
2. 論文標題 占領期の南博—プランゲ文庫資料を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 30-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 45号
2. 論文標題 柴田侑宏、正塚晴彦から上田久美子まで	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 文学芸術	6. 最初と最後の頁 85-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五味淵典嗣	4. 巻 72号
2. 論文標題 「八月—五日」表象の政治学—『日本のいちばん長い日』映画化をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 早稲田大学教育・総合科学学術院 学術研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五味淵典嗣	4. 巻 199集
2. 論文標題 帝国の残響—横光利—『微笑』再読	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国文学研究	6. 最初と最後の頁 114-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 張 新民	4. 巻 37
2. 論文標題 中国での菊池寛『結婚二重奏』の受容について：小説の翻訳を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国学志	6. 最初と最後の頁 [31] ~ [62]
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/0002000502	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 Issue3
2. 論文標題 Girls(and Boys) Debating Democracy in Aoi sanmyaku	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『Japanese Studies』Volume42.2022	6. 最初と最後の頁 58-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10371397.2022.2134100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川崎 賢子	4. 巻 75
2. 論文標題 川崎賢子 著『宝塚：変容を続ける「日本モダニズム」』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 演劇学論集 日本演劇学会紀要	6. 最初と最後の頁 118 ~ 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18935/jjstr.75.0_118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 23号
2. 論文標題 久米正雄『白蘭の歌』における満鉄表象とイデオロギー視角としての愛路運動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 64-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田則昭	4. 巻 23号
2. 論文標題 「占領期・1950年代ソビエト映画紹介者としての土方敬太」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuoka Masakazu	4. 巻 9
2. 論文標題 Japan's memory of war and imperialism in kay? eiga: Shochiku's Under the Stars of Singapore and Asianism1	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 East Asian Journal of Popular Culture	6. 最初と最後の頁 9~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1386/eapc_00086_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡昌和	4. 巻 25号
2. 論文標題 「東南アジア民衆像」の論点ーアジア主義と劣等感のあいだ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 植民地教育史研究年報	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張新民	4. 巻 4巻
2. 論文標題 日本軍政時期 (1942-1945) 的新馬電影	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北大芸術評論	6. 最初と最後の頁 77-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張 新民	4. 巻 38
2. 論文標題 中国での菊池寛『結婚二重奏』の受容について：小説の映画化を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国学志	6. 最初と最後の頁 [121] ~ [150]
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/0002000543	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンニ	4. 巻 53
2. 論文標題 台湾ホラー映画一瞥	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 58-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンニ	4. 巻 3
2. 論文標題 用影像書写電影—記電影監督大島渚	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JapanFoundation 『日本研究之窗』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡昌和	4. 巻 新89号
2. 論文標題 東南アジアの植民地における大衆文化と多様なナショナリズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 19 - 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田則昭	4. 巻 51号
2. 論文標題 「独立科学」としての新聞学の確立とその広がり 小山栄三『新聞学』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 87号
2. 論文標題 尾崎翠 表現主義映画に魅せられて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊文科	6. 最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アンニ	4. 巻 21
2. 論文標題 貫戦期における日中映画往還—延安・満映・東影・日本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎賢子	4. 巻 21
2. 論文標題 「大陸三部作」の越境—メディア・ジャンル・ジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張新民	4. 巻 21
2. 論文標題 日本占領下における華北電影股份有限公司の巡回映写について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田則昭	4. 巻 21
2. 論文標題 出版人・ソ連文化プロモーターとしての大竹博吉の戦後-占領期・50年代におけるナウカ社の活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎 賢子	4. 巻 105
2. 論文標題 岩本憲児・アンニ編『戦時下の映画 日本・東アジア・ドイツ』森話社、2019年8月	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 100-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18917/eizogaku.105.0_100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張新民	4. 巻 第94号
2. 論文標題 菅原慶乃『映画館のなかの近代-映画観客の上海史』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代中国	6. 最初と最後の頁 122-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 15件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 戦後日中映画交渉試論－歴史・表象・言説
3. 学会等名 清華大学日本研究センター・中央大学共催「日中女性学者連続講座」1（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 戦時映画製作と言説のジレンマ－「大陸映画」とその受容をめぐって
3. 学会等名 大阪市立大学第89回中国学会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 与後李香蘭の宝座失之交臂－女演員高峰秀子の戦時与戦後
3. 学会等名 中国中山大学外国語学院招待講座（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 日中映画言説の断絶と連続に関する一考察－戦後における北川冬彦と岩崎昶の対立を中心に
3. 学会等名 科研費基盤研究（A）ワークショップ「建国初期中国を移動する身体メディア・プロパガンダ」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 近著について語る
3. 学会等名 パリ・シテ大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 戦後GHQ占領期から冷戦期にかけての「大衆文学」研究の現状と課題
3. 学会等名 シンポジウム「日本文学研究の現在と世界の視野」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 『宝石』1948年 移動の表象
3. 学会等名 公開講座シンポジウム 雑誌『宝石』と戦後日本の探偵小説
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 李香蘭の越境を再読する
3. 学会等名 清華大学日本研究センター・中央大学共催「日中女性学者連続講座」2（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田則昭
2. 発表標題 占領期・1950年代ソビエト映画紹介者としての土方敬太ー文学・演劇・映画を中心に
3. 学会等名 20世紀メディア研究所・第158回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張新民
2. 発表標題 民国時期上海電影的日本文学作品改編
3. 学会等名 中国山西大学120周年記念活動92号涉度光影系列講座（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五味淵典嗣
2. 発表標題 接触領域としての戦場ー日中戦争期戦記テキストにおける他者の表象
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会・第六回国際シンポジウム（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 林和研究における日本滞在期間の位相
3. 学会等名 帝国の中の植民地、植民地の中の帝国（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 時勢に逆らう小津安二郎のファミリー・メロドラマー戦後の『東京物語』と戦前の『戸田家の兄妹』
3. 学会等名 科研費合同オンライン研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五味淵典嗣
2. 発表標題 終末のスペクタクルーアジア太平洋戦争末期のメロドラマ的想像力
3. 学会等名 科研費合同オンライン研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張新民
2. 発表標題 中国での菊池寛『結婚二重奏』の映画化についてー『紅樓春深』と『結婚交響曲』
3. 学会等名 科研費合同オンライン研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 映画交流の文脈からみる文革後の日中映画の蜜月
3. 学会等名 中国現代史研究会2022年総会・研究集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 Screening of Japanese Films in Japanese-occupied Singapore
3. 学会等名 Workshop on Memories and Politics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 戦後日本に見られる南方占領の記憶
3. 学会等名 20世紀メディア研究所第151回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 The Representation of a Chinese Woman in a Post-war Japanese Film Under the Stars of Singapore (1967)
3. 学会等名 Inter-Asia Cultural Studies Society Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 A Detective with Mixedblood Looks: Transformation of the Detective Genre as a Transcultural Text
3. 学会等名 EJAS (European Association for Japanese Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 安岡章太郎「海辺の光景」における父母イメージの変容：老化動物化
3. 学会等名 JSAA (Japanese Studies Association of Australia) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 「白蘭の歌」におけるプロパガンダ・メロドラマ・アダプテーション
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 「電影的越境与被撕裂的表象 戦時女演員の身体政治」
3. 学会等名 香港城市大学 (City University of Hong Kong) 中国文化系列講座 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 アンニ
2. 発表標題 貫戦期における日中映画往還—延安・満映・東影・日本
3. 学会等名 21世紀メディア研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎賢子
2. 発表標題 「大陸三部作」の越境—メディア・ジャンル・ジェンダー
3. 学会等名 21世紀メディア研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 張新民
2. 発表標題 日本占領下むにおける華北電影有限公司の巡回映写について
3. 学会等名 21世紀メディア研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 アジアの植民地における大衆文化と国際秩序変化への対応
3. 学会等名 歴史学会第3回歴史総合シンポジウム「国際秩序の変化や大衆化の論じ方—1910年代から50年代の世界」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 Japan's Memory of the Occupation of Southeast Asia in Under the Stars of Singapore
3. 学会等名 2nd East Asian Popular Culture Association Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡昌和
2. 発表標題 Film and Japanese Cultural Policies in Wartime Singapore
3. 学会等名 AAS 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 アンニ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 189
3. 書名 中国21	

1. 著者名 吉田則昭	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 -
3. 書名 緒方竹虎（総裁代行委員）－非政党人としての党内基盤の確立	

1. 著者名 吉田則昭	4. 発行年 2024年
2. 出版社 クロスカルチャー出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 郡上村に電話がつながって50年	

1. 著者名 五味淵典嗣	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 296
3. 書名 「敗け方」の問題 戦後文学・戦後思想の原風景	

1. 著者名 川崎賢子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 550
3. 書名 『関西探偵/捕物 作家クラブ会報』－戦後占領期の大衆文化	

1. 著者名 川崎賢子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 日本近代文学館	5. 総ページ数 -
3. 書名 WEB増補版『日本近代文学大事典』	

1. 著者名 アンニ執筆分担	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 927
3. 書名 アジア人物史11巻『世界戦争の残禍を越えて』	

1. 著者名 川崎賢子共編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 図書刊行会	5. 総ページ数 1044
3. 書名 定本夢野久作全集8巻	

1. 著者名 川崎賢子共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 文学研究の扉をひらく 基礎と発展	

1. 著者名 五味淵典嗣共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 365
3. 書名 中国の都市の歴史的記憶 十九世紀後半～二十世紀前半の日本語表象	

1. 著者名 川崎賢子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店 現代文庫	5. 総ページ数 496
3. 書名 宝塚：変容を続ける「日本モダニズム」	

1. 著者名 泉水英計編 松岡昌和執筆分担	4. 発行年 2022年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 26
3. 書名 近代国家と植民地性：アジア太平洋地域の歴史的展開	

1. 著者名 野世英水・加藤斗規編 松岡昌和執筆分担	4. 発行年 2021年
2. 出版社 銀河書籍	5. 総ページ数 24
3. 書名 近代東アジアと日本文化	

1. 著者名 宇多丸・三沢和子編著 アンニ執筆分担	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Little More	5. 総ページ数 3
3. 書名 森田芳光全映画	

1. 著者名 アンニ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北京大学出版社	5. 総ページ数 345
3. 書名 中日電影関係史 1920-1945	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	五味 澁 典嗣 (Gomibuchi Noritsugu) (10433707)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	張 新民 (Zhang Xinmin) (40326244)	大阪公立大学・大学院文学研究科・教授 (24405)	
研究分担者	志賀 賢子 (川崎賢子) (Kawasaki Kenko) (40628046)	立教大学・文学部・特定課題研究員 (32686)	
研究分担者	松岡 昌和 (Matsuoka Masakazu) (70769380)	大月短期大学・経済科・助教 (43502)	
研究分担者	渡辺 直紀 (Watanabe Naoki) (80409367)	武蔵大学・人文学部・教授 (32677)	
研究分担者	吉田 則昭 (Yoshida Noriaki) (90823609)	立正大学・人文科学研究所・研究員 (32687)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 メディア化された身体/引き裂かれた表象－東アジア冷戦文化の政治性	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------